

地域に眠る社会資源としての障がい者アートとその活用

一般社団法人 障がい者アート協会

タイガシ ユーグ (Kaepal様)



カートン (凸版印刷様)



カップ スリッパ (ビ場様)



飯島 (馬淵建設様)



ポーチ (Genseki様)



カンダマ (ヤマデン様)



飯島 (タイワノミ様)



飯島 (馬淵建設様)



障がい者アートの未来を探して
～コイントスから始まった起業奮戦記～

一般社団法人障がい者アート協会 熊本豊敏



オモイカネックス

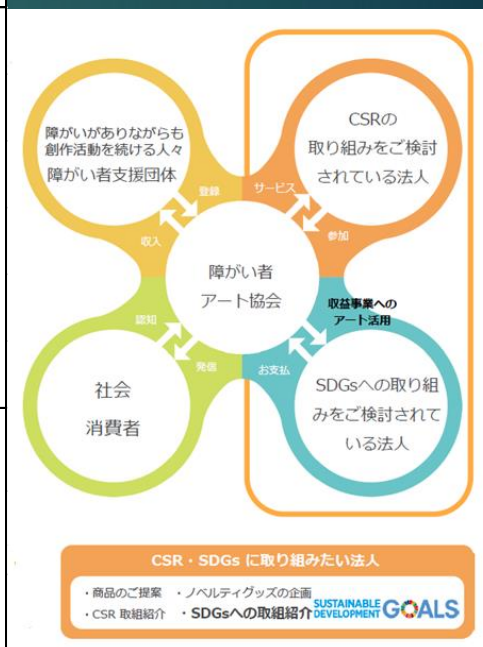


団体紹介

団体概要と事業内容

I. 団体紹介：概要

団体概要	団体名	一般社団法人 障がい者アート協会
	設立	2015/12/1（現在7期目）
	拠点	埼玉県入間市
	職員	2名
事業概要	事業内容	● 障がい者支援事業 ・ 障がい者の創作活動、アート作品の周知 →オンラインギャラリー【アートの輪】管理運営 ・ 経済支援：創作活動、作品に対する対価の還元 ● 企業のSDGs、CSR活動のサポート事業 →障がい者アートを活用した取り組みへの作品及びデザイン提供
	モットー	一人でも多くの障がいがありながらも創作活動を続ける人たちの 一点でも多くの作品を、 一人でも多くの人に手元に届け、見てもらう、知ってもらう。



I. 団体紹介：事業概要（障がい者支援事業）

●オンラインギャラリー【アートの輪】



アートの輪 (障がい者アート協会)

アーティスト ARTIST 作品 WORKS 団体 GROUP

作品数24,977件 検索ワード... ④サイトについて お問い合わせ アーティスト登録

埼玉県 SDGsパートナー

【障がい者アーティスト募集中です】
障がい者アート協会は埼玉県SDGsパートナーです

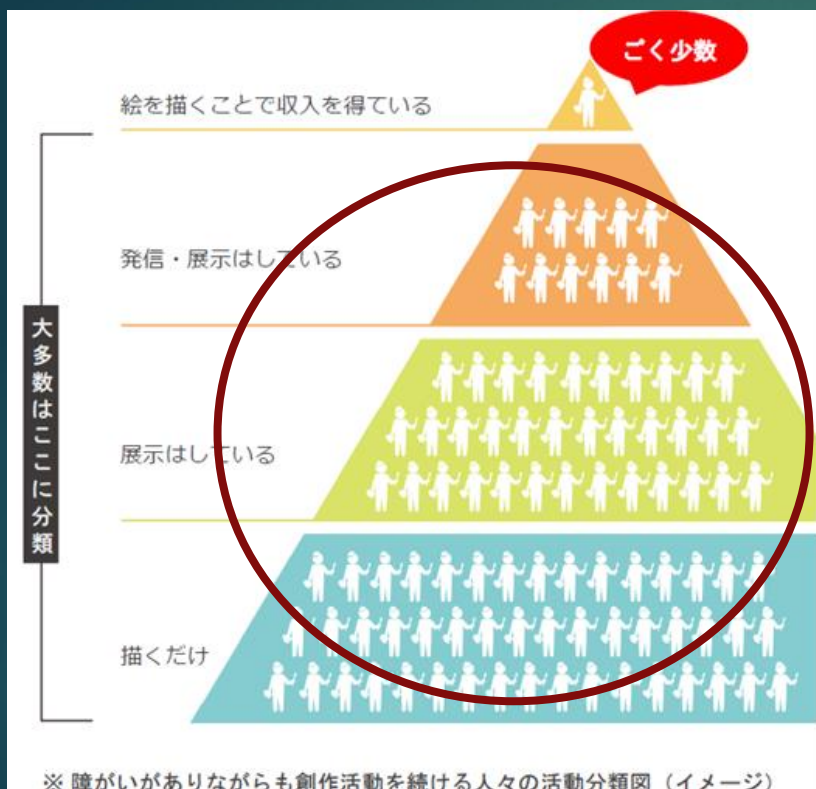
アートの輪は障がいのある方の作品を集めたオンラインギャラリーです
アーティストや作品は毎日更新中！



Twitter他SNS

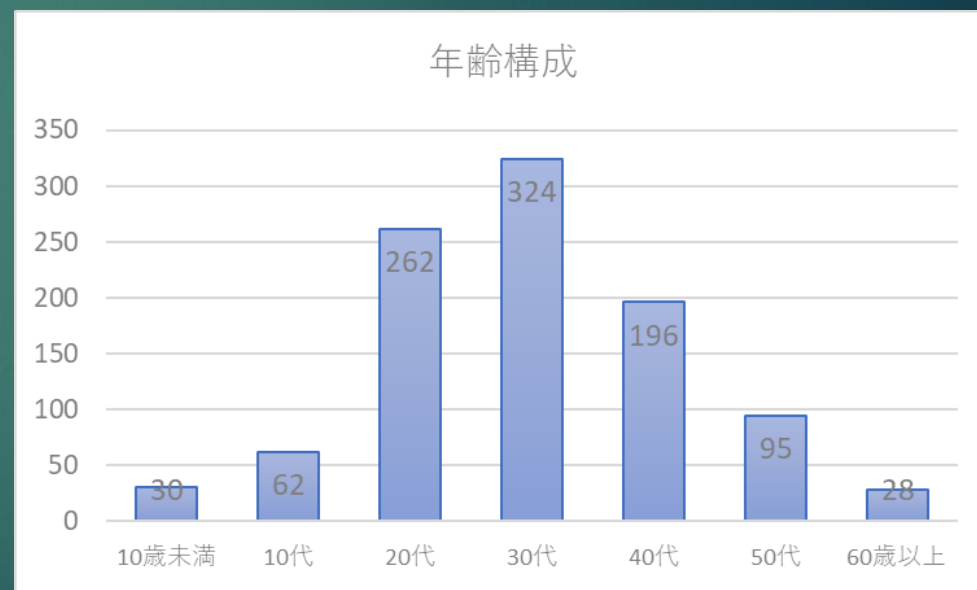
- 登録アーティスト約1000名、公開作品数約29,000点。国内最大の障がい者のアートに特化したオンラインギャラリー
- 作品選定、参加者の区別等はせず、発信の意志のある人すべてを受け入れる。

●参加者



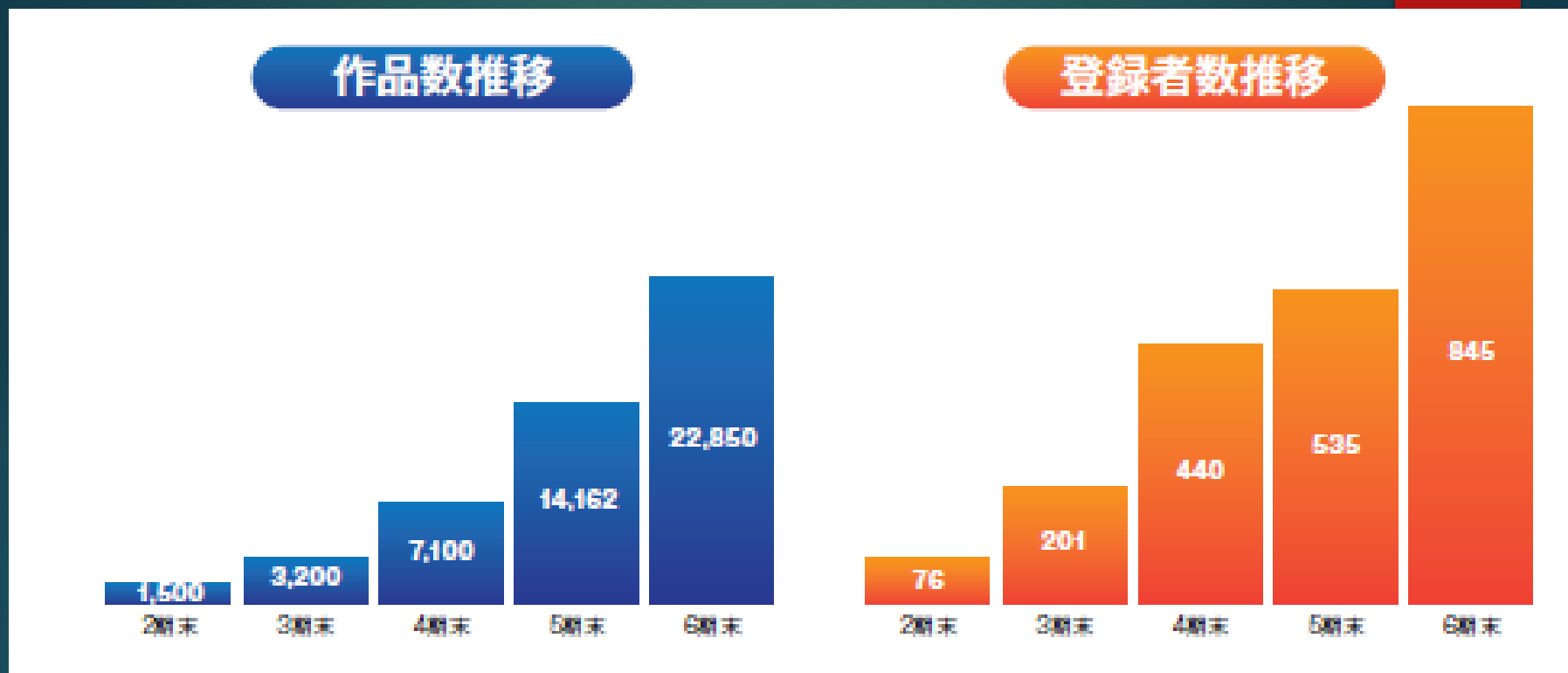
登録アーティスト数 (単位：人)

総数	性別		障害種別		
	男性	女性	身体	知的	精神 (含発達)
995	358	637	109	80	806
(構成比)	(36%)	(64%)	(11%)	(8%)	(81%)



- ・ 総数995名のうち埼玉県在住者は71人含め全国47都道府県から参加
- ・ 十分な発信力とコミュニケーションの術を持たない多くの人々が対象

I. 団体紹介：事業規模の推移（作品数・登録者数）



- ・登録者数：990名（2022年5月末時点）、1～2人/日新規登録（個人）
- ・登録団体数：45団体
- ・作品点数：28,000点、25～30作品新規公開/日
- ・参加者、作品数ともに増加傾向

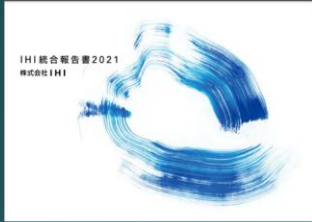
I. 団体紹介：事業概要（SDGs、CSRサポート事業）

●企業によるアート活用事例

新オーデオテクニカ様_オリジナルカレンダー



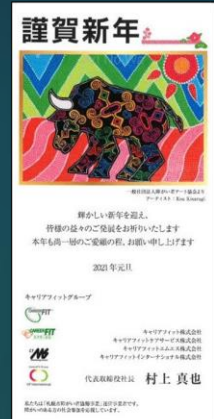
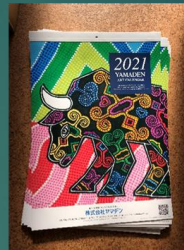
新IHJ様_統合報告書表紙



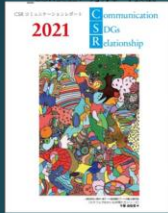
建設現場仮囲い（鉄建建設株式会社_新張新駅）



カレンダー（株式会社ヤマデン）



アデランスグループ様
「SDGsとコミュニケーション」



（公社）日本フイット®協会様
協賛表紙



新レボル様_ホームページビジュアル



エコバッグ（鉄建建設株式会社）



マスクケース（鉄建建設株式会社）



新時代工房様_雑貨（Geneski）



ザ・ルイカンズ_スバ・アランド・リゾート様_展示_雑貨



ランチバッグ（Kaepa）



クールスポット外壁（株式会社東京カス）



協会の課題

Ⅱ. 課題

収入増

障がい者のアートを事業活動に活用する企業を更に開拓することで、収益事業の収入増を図る

経済支援の充実

経済支援の裾野拡大と対象者
個々の支援金額アップ

業務合理化

規模拡大に耐えうるシステム投資とアウトソーシングの実現

参加者のさらなる募集

団体、特に特別支援学校の参加を積極的に募りたい



本日のテーマ

地域に眠る社会資源としての障がい者アートとその活用

～これまでの活動を通して思うこと～

Ⅲ. 地域に眠る社会資源、障がい者が生み出すアートの活用

- 障がい者が生み出すアートが地域社会で活用され、周知されることは、作品を生み出した当事者のみならず、同じような地域でハンディキャップを持つ人々に力を与え、自立に向けて背中を押すものとなると同時に、社会の関心を引き寄せ、健常者・障がい者の垣根を低くし、誰ひとり取り残さないという豊かな包含社会の実現へ向けた一歩となりうる。



障がい者が生み出すアートそのものが社会資源

今後：障がい者の生み出すアートの掘り起こしと更なる活用が必要